

平成 29 年度 第 7 回 横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会 議事録

日 時	平成 29 年 12 月 18 日 (月) 13 時 00 分～15 時 00 分
開 催 場 所	横浜市庁舎 5 階関係機関執務室
出 席 者	委員 7 名：岸井委員長、治田副委員長、石川委員、国吉委員、西田委員、野原委員、矢ヶ崎委員 事務局（都市整備局）：薬師寺局長、高瀬都心再生部長、黒田都心再生課担当課長 ほか
欠 席 者	足立委員
開 催 形 態	非公開
次 第	1 現市庁舎街区活用事業について
概 要	<p>議題について事務局から資料の説明をした後、委員による協議を実施 (主な発言要旨)</p> <p>1. 関内駅周辺地区の新たなまちづくりに向けて</p> <p>(1) 国際的な産学連携と観光・集客の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のリソースとの連携や観光と連動する交通拠点といった提案に対する支援を提示することで、欲しいものをアピールする方法もあるのではないか。 ○雇用創出は重要であり、地域にどれだけ雇用が生まれるかを考える必要がある。 ○この地域の活性化を図る活動に対し、税制面などの積極的な優遇策をとるべき。 ○外国人観光客を関内に呼び込むためには、街全体のブランディングになっていかないと投資して作ったものが有効に使えない。 ○横浜は外国クルーズ船にアドバンテージがあり、ワンデーツアーの提供による誘導や、歴史や暮らしを楽しんでもらうためのバスが重要になる。 ○横浜都心部の中で、具体的にどこからどこへどんな観光を進めてゆくの、その中で現庁舎街区周辺が果たすべき役割は何か、熟慮する必要がある。 ○この地域の特色を考えて、ある程度絞った形で考えるべきではないか。 <p>(2) 関内駅周辺地区の魅力を高めるインフラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅側も積極的に提案させたほうがよいのではないか。 ○人の流れをデザインさせるのもよいのではないか。 ○例えば桜木町行きがあったり、野球の試合の後混んでいたり、関内駅は利便性が悪い。利便性を高めるための全体調整を市がすべき。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○この取組が公民連携の象徴的なアウトプットになり、数年後に街がよくなったと言われるようになるような、この街に住みたい、働きたいといったメッセージを出すべき。 ○文化体育館事業との関係などを含めて、周辺の事業や状況とも連動しながら、回遊性や連携、動線などを視野に入れた総合的な整備の方針が必要である。 ○現状のまちづくりの方向性を変える場合は、事業性の観点で変えていくのか、政策に基づいて変えていくのか、市としてのスタンスが重要。 ○回遊性や全体のプランニングについて、市の考えを出した上で、よりよい提案があれば調整するという、公民連携の新しい仕組みが重要。

	<p>2. 既存建物について</p> <p>○既存建物については、建物情報（経緯・歴史的価値・特徴・図面など）も多く記載して、その価値がわかる情報を提供すべきである。</p> <p>○建物の活用については、『行政棟は活用を基本としつつ、「横浜らしい街並み景観の形成」及び「地区の活性化」等に資する提案があれば柔軟に対応し、様々な提案を公平に評価します。』『市会棟・市民広間等については、既存建物の活用又は解体して新築棟を整備するなど、地区の活性化と魅力向上につながる様々な提案を求めます。』（平成 29 年 3 月策定「現市庁舎街区等活用事業実施方針」抜粋）と定めている。具体的な建物活用については、多くのパターンが考えられるだろう。</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 議事次第 2 委員名簿 3 関内・関外地区及びその周辺で予定されている主な計画 4 関内駅周辺地区の新たなまちづくりに向けて 5 既存建物について